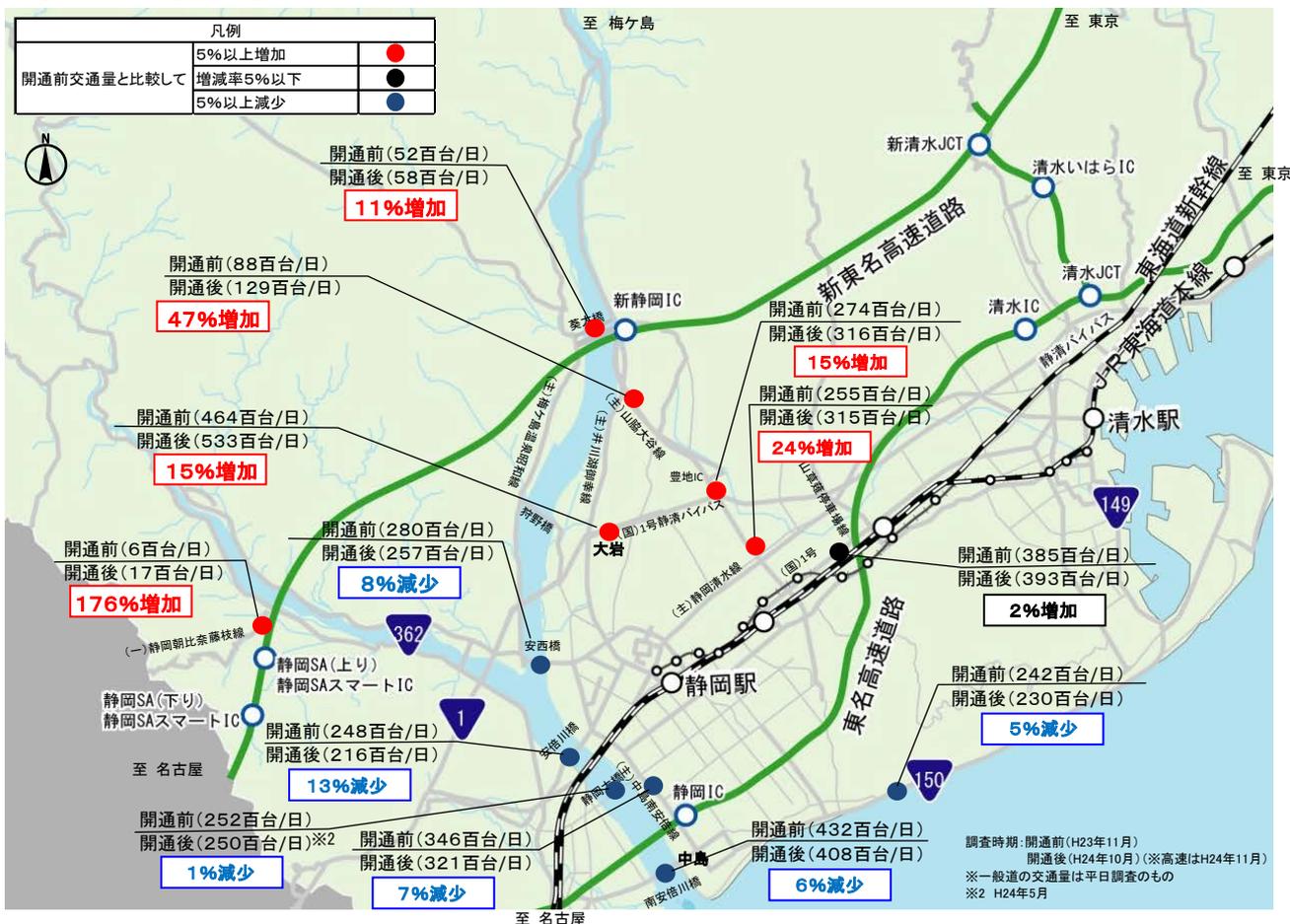


# 1. 静岡市街地内の交通の流れ

- ・ 新東名およびアクセス道路の開通により、静岡市街地の交通の流れが大きく変化しました。
- ・ 新東名新静岡ICと市街地を結ぶ（主）山脇大谷線の交通量が増加（最大47%増）
- ・ 安倍川渡河断面の一般道路では、交通量が減少傾向（最大13%減）

## ■市内の交通量の変化



## ■静岡市街地の交通分散イメージ



新東名と静岡バイパスが（主）山脇大谷線を経由して連結することで、高速道路へのアクセス性向上が図られています。また、静岡バイパスの唐瀬IC～羽鳥IC4車線化により、市街地への交通分散が図られています。

## 2. 医療搬送における所要時間の短縮

- ・ 市内の救急搬送等で新東名が利用され、搬送時間が短縮し、傷病者への負担も軽減されています。
- ・ 清水区<sup>ししはら</sup>宍原地区から静岡県立総合病院への搬送時間は、新東名開通後28分短縮し、20分で病院に到着が可能となりました。
- ・ 傷病者をより迅速に病院に搬送できるようになり救命の確率が高まりました。

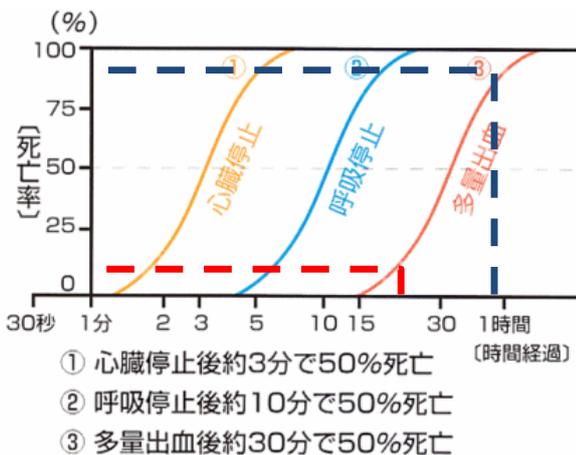
### ■新東名利用による救急搬送について

新東名を利用することで、一般道路のカーブやアップダウン、段差などを回避でき、振動による傷病者への負担を軽減することができます。  
また、病院到着時間が短縮し、より迅速に治療ができます。



出典：静岡市消防局ヒアリング

### ■<sup>ししはら</sup>宍原地区から静岡県立総合病院への搬送の場合



多量出血の際の死亡率が  
**93%から16%に低下**



静岡県立総合病院

※清水区宍原地区から静岡県立総合病院に搬送した場合  
(開通前ルート) 国道52号⇒国道1号静岡バイパス  
(開通後ルート) 国道52号⇒新東名高速道路(新清水IC⇒新静岡IC)⇒(主)山脇大谷線  
開通前所要時間：平成22年道路交通センサス混雑時平均旅行速度から算出  
開通後所要時間：新東名高速道路、主要地方道山脇大谷線) 規制速度から算出  
(上記以外の道路) 平成22年道路交通センサス混雑時平均旅行速度

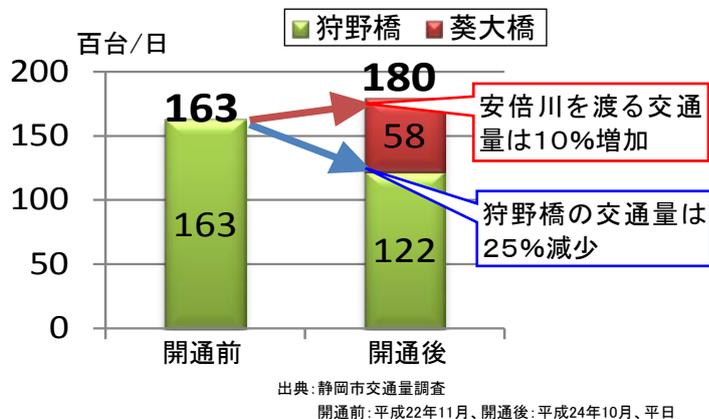
### 3. 新東名アクセス道路の開通による効果

- ・ 新東名の開通に合わせて、新静岡 ICに連絡する主要地方道山脇大谷線、葵大橋（主井川湖御幸線）が整備されました。
- ・ 狩野橋では、交通量が25%減少し、周辺住民からは「到着時間が読める（61%）」「早く着ける（52%）」との声が聞かれ、沿道地域の生活環境が向上しました。

#### ■新東名アクセス道路の開通による交通流動の変化



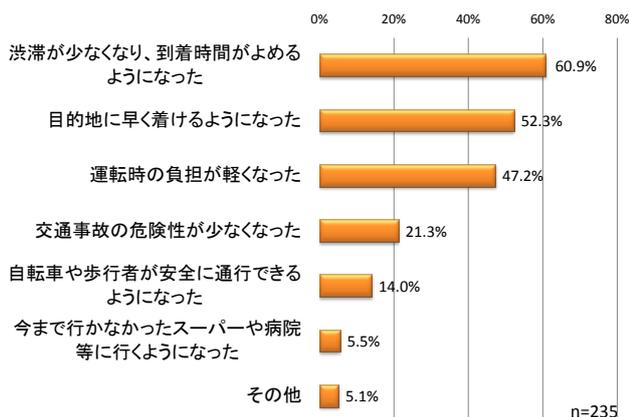
#### ■狩野橋・葵大橋の交通量



#### ■狩野橋の状況



#### ■周辺住民の実感



葵大橋と（主）山脇大谷線が整備されて、流通センターや国吉田方面のスーパーに行けるようになりました。流通センターまでは、13分くらい短くなりました。



静岡赤十字病院までの時間が15分くらい短くなり助かっています。

